

あてつまんさく

新見の農業情報

普及だより 2015 年号



新見農業普及指導センター

目次

1	特 集	担い手の確保と育成	1
	(1)	水田営農：集落営農組織の法人化と組織活動支援	1
	(2)	園芸作物：就農と営農（栽培初心者）支援	3
2	技術情報		4
	(1)	L A I の適正化で品質向上 ～ピオーネの新梢管理～	4
	(2)	流入肥料で楽々施肥、楽々増収	4
	(3)	夏秋トマト すすかびとまれ	5
	(4)	越冬後のにんにくに葉面散布を実施	6
	(5)	蜂の一刺しに注意 ～りんどうの大害虫「ハチ」対策～	6
3	ちょっと一息		7
	(1)	正しくつないで賢く撃退！（電気柵安全利用）	7
4	普及活動情報		8
	(1)	千屋牛の飼育体験が大人気	8
	(2)	課題解決に取り組む後継者	8
	(3)	新見農業士会が新規就農者確保・育成について研修会	9
	(4)	6次産業化へ第一歩 ～6次産業化研修会	9
5	今年輝いた人		10
	(1)	平成27年度 新見市ピオーネ共励会	10
	(2)	平成27年度 新見市桃共励会	10
	(3)	平成27年度 新見市花卉共進会	10
	(4)	平成27年度 岡山県花き共進会	11
	(5)	第70回 岡山県畜産共進会	11
	(6)	平成27年度 岡山県農林漁業功労者表彰	11

表紙写真 左上：集落営農で牛の放牧 右上：就農準備講座（トマト）
中央：ぶどう個別重点指導
左下：電気柵設置研修 右下：農業体験研修（りんどう）

■ 1 特集 担い手の確保と育成

(1) 水田営農：集落営農組織の法人化と組織活動支援

ア 集落営農活動を発展させるために

集落のみんなで助け合って農業をするのが集落営農です。新見市内には2つの農事組合法人と22の任意組織があります。

任意の集落営農組合では、組合で農地を借りることができない、収益を組合で留保できないので機械更新がしにくい等の制約があり、地域の担い手としての基盤が弱いため、活動が停滞または自然消滅してしまうことも多いようです。

集落営農活動を継続・発展させるためには、法人化することも一つの手段です。

法人化といってもまずは、法人の構成員を引っ張るリーダーシップ、合意形成力、実践的行動力等を兼ね備えた代表者となる人材が必要です。また、法人経営を継続させるため、収支経営計画が成り立つ経営を行うことができるかを検討しておかなければなりません。

今年度、神郷1組織、哲西2組織から法人化の相談があり、普及指導センターは新見市、JA阿新、JA岡山中央会、備中県民局と連携し、研修会、集落座談会、必要書類の作成支援を行いました。法人化を目指す3組織は、法人化に対する認識を深め、法人形態、定款、作付品目や面積計画、税務関係等を組織ごとに検討しました。特に、農地中間管理事業に関する問い合わせが多く、関係機関が密に連携し対応しました。3組織とも今年度中に法人化する見込みです。



集落みんなで座談会



集落営農組織の法人化とは…

イ 集落のアイドル（和牛）大活躍

上熊谷の農事組合法人潮営農組合は、営農活動の一部門として、組合で繁殖牛を所有して、放牧に取り組んでいます。

なぜ集落営農組織で牛を飼うの？と思われる方も多いと思いますが、この取り組みによって、①子牛の販売や経営所得安定対策の交付金による収入が見込める、②耕作放棄地が解消され農地として活用できるようになる、③毎日の世話は牛



集落のアイドル

のチェックくらいなので、老若男女問わずに組織の活動に加わることができる、④繁殖農家として千屋牛の振興に役立つ、という利点があります。また、個人での放牧に比べて、①放牧地の選定や集積がしやすい、②毎日の世話が分担できる、③もし突発事態が起こっても対応しやすいという利点もあり、継続的な取り組みができます。

1.2haに6月から11月まで2頭の牛を放牧しました。放牧期間中、特にトラブルはなく、臭いや畦畔の崩れ也没有ませんでした。

牛たちの働きは予想以上で、何年も耕作していなくて背丈ほどの雑草が生い茂っていた土地もすっかりきれいになり、農地として利用できるようになりました。イノシシの被害に悩まされていましたが、雑草がなくなったことで隠れる場所がなくなり、今年は被害がありませんでした。牛の話題によって地域の人が法人の活動について関心が高まるという効果もありました。

雑草が生えていない冬期は、潮宮農組合で生産したWC S（ホールクロップサイレージ）とイタリアンライグラスを与えています。

残念ながら今年は子牛が産まれませんでした。春に親牛が1頭増え、子牛も産まれる予定です。放牧面積も増やすことにしており、経営が安定するとともに、さらに集落が盛り上がることを期待しています。



放牧開始時



放牧後1か月半

ウ 岡山県農地中間管理機構の活用

昨年度から、農業経営基盤強化促進法に基づき、農地流動化の切り札として設置されました。機構を経由することで、農地の出し手も受け手も安心して農地の貸し借りができる上に、機構集積協力金事業を利用することが出来ます。本年度、新見市では集落営農法人3戸と個人16戸の計40ha以上で活用される見込みです。

この事業を生かすためには、受け手の営農計画と、出し手と協力して農地を守る地域の計画を共有する必要があります。そのために人・農地プランを随時見直して、地域農業のビジョンを毎年検討していくことが重要です。今後、人・農地プランの話し合いが開催される場合は積極的にご協力ください。

本年度11月からは、新見市役所農林課内に機構の駐在が設置されて、機構に直接相談することができるようになりました。

(新見市農林課耕地係内 備中支部新見市駐在 機構担当 0867-72-6135)



(2) 園芸作物：就農と営農（栽培初心者）支援

ア 新規参入者の栽培技術の早期安定に向けて

普及指導センターでは、新規参入者の早期栽培技術習得に向けて、個別巡回とぶどう部会やチーム・新見ピオーネの講習会で、重点指導を実施しました。結実安定に向けた基礎技術と、生育ステージごとに作業進行状況に合わせて作業方法の研修を行いました。本年度は安定した結実により、収量も経営計画の目標に近づいてきたようです。



ただいま巡回重点指導中

イ 農業研修生の支援について

新見市短期農業体験研修について7組の受入を支援しました。それに続く就農促進トータルサポート事業の農業体験研修については、6組を受け入れました。受入作目別には、ぶどうで4組、トマトで1組、りんどうで1組です。りんどうでは初めての受入となりました。研修場所の哲多町大野では、6月から7月の一か月間で、病虫害防除や収穫調整の作業を体験しました。関係機関や地元の皆さんの支援により住宅やほ場も決まり、12月から農業実務研修を開始しています。トマトとぶどうについては4月から農業実務研修開始に向けて準備を行っています。



りんどう出荷調整研修

新規参入者は6組で家族19人が移住します。今後も引き続き農地や住宅の確保、栽培技術向上に向けた支援についてご協力をお願いします。

ウ 就農準備講座

本年度も定年退職後など、新見の特産物の栽培を始めようとする方を対象に、ピオーネコースを豊永、ももコースを草間、トマトコースを神郷高瀬と湯川、りんどうコースを神郷高瀬で開催しました。

就農準備講座は来年も開催します。興味がある方は普及指導センターまでお問い合わせ下さい。



5月22日定植研修（トマトコース）

(1) LAI の適正化で品質向上 ～ピオーネの新梢管理～

葉の茂り具合を示す指標に「葉面積指数」(LAI)があります。ピオーネの適正な値は、2.2～2.5とされていますが、新見地域の実態を調査してみると、LAIが小さい(葉面積が少ない)園地が多いことが明らかとなりました。新見地域では、副梢をかき取る新梢管理が定着しています。ピオーネ導入当初は樹勢が強く、葉も大きいため、副梢葉が無くてもLAIは適正に管理できていましたが、次第に樹勢が落ち着き、葉も小振りになったことから葉数は同じでも葉面積が小さくなり、LAIが低下したと考えられます。



LAIが適正なピオーネ園の木漏れ日

品質を維持向上させるためには、LAIを高める必要がありますが、アプローチの方法として副梢葉を活用することと、枝数を増やすことの2つが考えられます。今年度、両者を比較したところ、副梢を活用する方が果皮色が若干良好となったものの、ほぼ同じ結果となりました。

生育後半にも光合成能力を維持し、果房をより高品質に仕上げるには副梢を積極的に活用する方法をとるべきです。しかし副梢を残さない管理が定着している新見地域では、新梢数を増やして葉数を確保することも選択肢となるかもしれません。調査からは、枝数が少ない園地が多いことも判明しました。

今後、普及指導センターでは、適正な房づくり、適正な結果量調整に加え、LAIの適正化を啓発します。また各生産者自身が自園のLAIを把握し、適正に調整できるように技術支援を行いたいと考えています。

(2) 流入施肥で楽々施肥、楽々増収

WCS用イネの栽培では、追肥はほとんど行われていません。しかし、生育や天候によっては、追肥の効果が期待されます。最近、1)田に入らず施肥でき、動力噴霧機を背負う必要がない、2)複数田に同時に施肥できるなどのメリットのある灌漑水と一緒に肥料を流し込む“流入施肥”が見直されています。

1 実証ほの概要と結果

- (1) 場 所 新見市哲西町畑木
- (2) 供試品種 たちすずか
- (3) 移植時期 6月5日
- (4) 基 肥 たい肥2トン/10a



尿素液をタンクに入れ水口から施肥

(5) 施肥方法 7月23日に尿素 15kg/20a (N: 3 kg/10a) を水 20ℓに溶解し、タンクから 0.4ℓ/分の割合でかん水しながら水口から追肥しました。

(6) 結 果 追肥を行うことで穂数が多くなり、葉色が保たれ収量が増加しました。

2 流入施肥の留意点

(1) 望ましいほ場の高低差は± 5 cm以下です。

(2) 田面は落水状態にしておきます。水深が+ 5 cm以上あると水尻に肥料が行き渡らずムラになります。

(3) 主食用品種では、倒伏などの心配があるので、倒伏しやすい品種では実施しないでください。

区 名	収量 (生重: t)	穂数 (本/㎡)	草丈 (cm)	葉色 (SPAD)
追 肥 区	4.0	271	138	33.2
無追肥区	3.8	265	139	31.9

(3) 夏秋トマト すすかびとまれ

夏秋トマトの主要病害の一つすすかび病は、達効を示す農薬がない難防除病害です。新見市では例年6月下旬から発病・拡大しトマトの生育・収量に影響を及ぼします。

そこで県農業研究所病虫研究室の主要成果をもとに、資材に付着したすすかび病の殺菌と発病前からの体系防除による病害抑制の検討を行いました。

1 実証ほの概要と結果

(1) 試験区 体系防除区とダコニールジェットくん煙処理+体系防除区の2区

(2) 処理日 体系防除: 6月10、19日、くん煙: 5月22日(トマト定植・活着後)

(3) 結 果 産地では例年並みの6月下旬からすすかび病の初発生・拡大だったのに対し、「体系防除区」で7月中旬、「くん煙+体系防除区」で8月上旬の初発生になりました。また、「くん煙+体系防除区」は発病後の拡大も緩慢で、9月上旬でも病斑の発生が少なく、資材に付着したすすかび病菌の殺菌と体系防除による抑制効果が見られました(写真および表)。

各区のすすかび病の発生状況



「体系防除区」



「くん煙+体系防除区」

	すすかび病 初発生時期	9月7日調査		
		発病葉率	病斑数/葉	防除価
体系防除区	7月中旬	100%	42.6以上	-
くん煙+体系防除区	8月上旬	86%	5.7	86.7

各ハウスの任意の5か所について、1か所当たり任意の中位葉20葉、合計100葉の発病の有無と病斑数を調査

次年度は資材消毒技術を普及し、すすかび病の被害を軽減していきたいと考えています。

(4) 越冬後のにんにくに葉面散布を実施

葉面散布で大幅に収量と品質が向上したという情報があり、実証試験を行いました。3月下旬から4月下旬にかけて計3回、表中の5つの資材で比較しました。

収穫時の調査では、草丈でペンタキープ、葉数で万田酵素、球径、乾燥前重量とも対照区が優れていました。しかし、乾燥処理後の調査では、対照区は裂皮したものが多くあり、可販数(球径6cm以上でLサイズの規格)では、尿素区が最も多くなりました(表)。今後も引き続き試験を続ける予定にしています。

6月16日収穫時の調査結果(太枠内は7月17日乾燥後の調査結果)

	収穫時 欠株数	草丈 (cm)	葉数 (枚)	茎径 (cm)	球径 (cm)	乾燥前重 (g)	乾燥後重 (g)	乾燥後 球径 (cm)	可販数 (個)
メリット青	5	81.5	5.4	18.5	70.0	118.5	78.4	66.1	10
メリット黄	6	78.4	5.9	20.1	68.9	119.7	77.6	64.8	9
尿素	1	80.0	5.3	17.7	68.1	108.6	78.1	65.4	16
ペンタキープ	2	82.4	5.7	19.9	71.4	127.9	87.9	67.4	9
万田酵素	2	81.6	6.2	19.5	71.3	124.6	76.0	67.4	10
対照区	3	82.1	5.5	20.1	73.3	133.4	91.9	70.2	8

(5) 蜂の一刺しに注意 ～りんどうの大害虫「ハチ」対策～

みなさんは花に集まる「ハチ」についてどう思っていますか？養蜂家の方にとってのミツバチ、果菜類を栽培している方にとってのハナバチ類は大切な相棒とみなされていると思います。

けれどもりんどう生産者にとっては全く益のない『害虫』なのです。ハチ類など訪花昆虫は蜜や花粉を求めて花を訪れます。彼らの働きでりんどうは受粉し子孫を残せるわけですが、受粉してしまうと花は急速に老化してしまいます。ハチの種類によっては花卉に穴を開ける乱暴者もいます。りんどう切り花の生産者は消費者の方に一日でも長く花を楽しんでいただきたいので、何とか受粉を阻止しなければなりません。

そこで、『ハチネット』。トマト栽培等でもおなじみですね。りんどう

の場合はハチを囲い込むためではなくて、ハチの侵入を防ぐためにハチネットを張ります。平成28年度からは、全りんどう生産者がハチネットを導入する予定にしています。



ネットを張らないと色々な訪花昆虫が来ます

■3 ちょっと一息

(1) 正しくつないで賢く撃退！（電気柵安全利用）

平成 27 年 7 月、静岡県で電気柵の誤った設置方法による感電事故が発生し、電気柵の使用に対する注目が集まりました。電気柵は獣害対策に欠かせないものですが、設置する際には安全に配慮することが必要です。

電気柵は、人に対する危険防止のため法律で設置方法が定められています。新見市ではイノシシ等の対策のため電気柵単独では場を囲うことに加え、サル対策として金属メッシュと組み合わせることで集落全体を囲うなど、幅広く利用されています。

電気柵は、対象の野生動物を瞬間的な感電により怖がらせて近寄らせないようにさせる心理的效果を利用したものであり、傷つけることを目的にしていません。電源と電気柵を接続する際には、電気柵用電源装置をはじめとした機器を確実につなぎ、絶対に直接接続してはいけません（図 1）。また、電源の種類により「正しいつなぎ方」が異なります。特に、家庭用コンセント等 30V 以上の電源を用いる場合には、漏電遮断機が設置されているかなど確認して下さい（図 2、3）。

電気柵は、正しい設置方法で安全に効果を発揮します。設置時には、確実に効果を発揮させるため、日頃の点検・整備も欠かさないようにして下さい。



電気柵は正しく設置しましょう

普及指導センターでは、こうした電気柵の基本的な知識や設置方法について集落営農組織を対象に講習会を実施し、安全使用に向けた意識啓発を行っています。

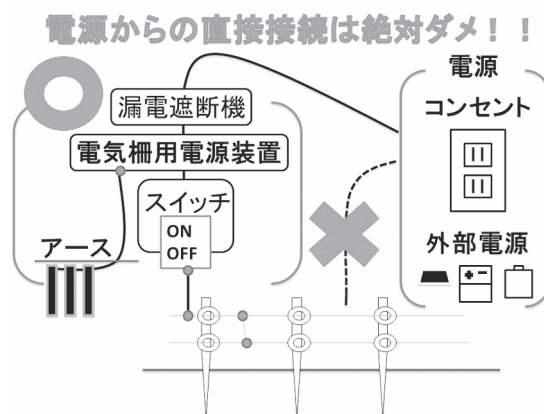


図 1：電気柵への正しい接続

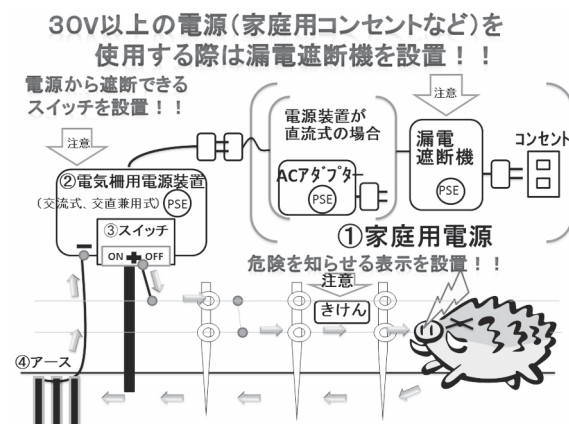


図 2：家庭用電源を用いた設置例

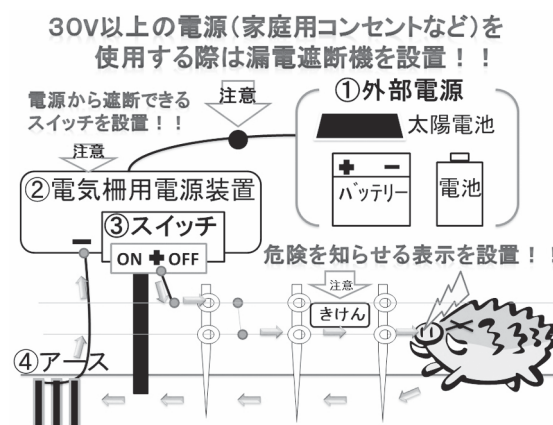


図 3：外部電源を用いた設置例

■4 普及活動情報

(1) 千屋牛の飼育体験が大人気

新見市で千屋牛の飼育体験（正式名：畜産農家担い手対策「千屋牛教育ファーム」体験事業）が大人気です。

昔は身近に飼育されていた千屋牛ですが、現在では市内で100戸弱の飼育戸数となり、接する機会が減少しています。そこで飼育体験を通じて、市内の子供達や地域の方へ千屋牛の歴史や現状を理解していただき、千屋牛飼育の楽しさを知ってもらおうと市、農協、県民局や地域の農家が協力して取り組んでいます。子牛の飼育体験をする学校では、生徒は事前学習とともに、朝夕のエサやりから糞取り、体調の観察までを体験します。



子牛飼育体験小学校でのお別れ会

昨年度は飼育体験を小学校2校、個人宅2戸で行い、井倉牧場で行った牧場見学は高校から保育園まで3校を受け入れました。本年度は体験した学校の好評価が広まり、11月の時点で小学校3校と中学校1校が飼育体験に取り組みました。また、牧場見学では高校、幼稚園とその保護者、地域の方と様々な方面から受け入れています。

これからもこのような体験をとおして、千屋牛飼育の理解を深める活動を行っていきます。（備中県民局農畜産物生産課畜産第二班より）

(2) 課題解決に取り組む後継者

新見地方新農業経営者クラブ（原田啓太 会長、会員37名）は、新見市内の青年農業者で構成された組織です。

クラブには旧市町単位に5つの支部があり、毎年、各支部ごとにテーマを決めて、生産技術の向上や経営の改善や新規作物の導入検討、地域の活性化等の地域農業課題の解決のための調査、研究活動に取り組んでいます。

本年度は、大佐支部は水稻の苗箱を水を溜めた状態で苗を育てる「プール育苗」方式での灌水、温度管理の省力化、神郷支部は、ハウス内に炭酸ガスが発生する資材を利用してのトマトの収量と品質の向上、新見地域はピオーネの花穂にジベレリンを散布し花穂を伸長させ、摘粒作業時間の削減に取り組みました。

これらの成果は、実績発表大会や農業者のつどいで発表することで地域への波及が期待されます。



プール育苗に取り組むクラブ員



トマトの調査を行うクラブ員

(3) 新見農業士会が新規就農者確保・育成について研修会

新見市農業士会（橋本澄男 会長）は、岡山県農業士 11 人と退任した 7 人が在籍しており、行政機関への提言や担い手育成の活動・支援を実践しています。

本年度は、研修会として 12 月 8 日（火）、新規就農者確保・育成で成功している倉敷市船穂町の活動について、農業公社、地元農業士と意見交換を行いました。参加した農業士 10 人は、農業公社が研修の受入主体となる体制やほ場の保有・管理、研修における農業士の役割等について学びました。

農業士会として新見市の重点作物のぶどう、もも、トマト、りんどうの産地振興には新規就農者の確保・育成は欠かせないものと考えています。受入体制や作目など異なるところもありますが、良いところを取り入れながら新規就農者の安定確保と研修の充実を図りたいと参加者全員が意欲を新たにしました。



倉敷市船穂農業公社・地元農業士との意見交換

(4) 6次産業化への第一歩 ～6次産業化研修会～

「農業の 6 次産業化」ということばを聞いたことがありますか。これは、農家のみなさんがより充実した農業経営を行う一環として、農産物の生産に加えてそれらを使った商品を作り、販売まで行う活動のことです。

普及指導センターでは、こうした活動に取り組む時の参考にしてもらおうと 9 月 30 日（水）に新見地域事務所で研修会を開催しました。講師は、(株)わきあいあいの立原英夫氏です。



講演を聴く参加者

講演のポイントは、つぎのとおりでした。

- ①商品開発の素材は地域の農産物であること、B級品も有効利用する。
- ②製造販売には守るべき法律や衛生管理の知識、設備等が必要。関係機関に相談し、適切な指導を仰ぐこと。
- ③商品開発は消費者目線で考えること。どんな人に食べてほしいか、ネーミングやパッケージ、容器、価格等すべてにわたる。

市・農協・商工会議所・商工会・普及指導センターは、6次産業化推進のための連携会議「6次化ふえ」を毎月開催し、6次産業化を志向する農家の情報交換等を行っています。農家のあらたな取組に向けて、関係機関で支援していきます。

■5 今年輝いた人

(1) 平成 27 年度 新見市ピオーネ共励会

平成 27 年 9 月 29 日に開催され、今年は「地域興し協力隊：pio-ne 女子」にも審査員として参加してもらいました。出品点数は 57 点で、平均果粒重 20.0g、平均糖度 17.6 度と優れたものでした。

◎最優秀賞	岡山県知事賞	磯田 靖夫 (大佐)
◎優秀賞	新見市長賞	浅田 裕基 (豊永)
〃	備中県民局農林水産事業部長賞	家本 弘彦 (豊永)
〃	岡山県農業協同組合中央会長賞	米谷 信義 (豊永)
〃	全国農業協同組合連合会岡山県本部長賞	吉岡 博 (豊永)
〃	岡山県農業共済組合連合会長賞	山崎 信吾 (大佐)

(2) 平成 27 年度 新見市桃共励会

平成 27 年 7 月 28 日に開催され、白鳳、浅間白桃を中心に合計 35 点の出品があり、糖度は平均 12.1 度、最高 15.5 度でした。

◎最優秀賞	新見市長賞	長岡美佐江 (草間)
◎優秀賞	備中県民局長賞	田中 慧 (草間)
〃	備中県民局農林水産事業部長賞	西山 嘉治 (草間)
〃	岡山県農業協同組合中央会長賞	藤原 健雄 (草間)
〃	全国農業協同組合連合会岡山県本部長賞	對野 豊 (草間)

(3) 平成 27 年度 新見市花卉共進会

平成 27 年 9 月 16 日に開催され、生産者 14 戸からりんどう、小菊、トルコギキョウ等、合計 34 点の出品がありました。また、翌日には一般展示されました。

◎最優秀賞	新見市長賞	(りんどう) 上田ちず子 (哲西)
◎優秀賞	備中県民局長賞	(小 菊) 谷村 悦子 (熊谷)
〃	備中県民局農林水産事業部長賞	(りんどう) 田邊 薫明 (新郷)
〃	岡山県農業協同組合中央会長賞	(りんどう) 大島 節子 (哲西)
〃	全国農業協同組合連合会岡山県本部長賞	(りんどう) 谷村 悦子 (熊谷)

(4) 平成 27 年度 岡山県花き共進会

平成 27 年 7 月 31 日に開催され、切花類 102 点、枝葉物類 11 点、鉢物・苗物類 6 点、合計 119 点の出品がありました。

◎最優秀賞	農林水産大臣賞（特別賞）	（りんどう）田邊実千代（新郷）
◎奨励賞	岡山県花き生産協会会長賞	（りんどう）安田 毅（哲西）
〃	〃	（りんどう）阪口 太一（千屋）
〃	〃	（りんどう）妹尾 牧能（下熊谷）

(5) 第 70 回 岡山県畜産共進会

平成 27 年 10 月 11 日、真庭市の総合畜産市場で開催されました。県内各地の予選を勝ち抜いた肉用種々牛 50 頭、乳用種牛 84 頭が出場しました。

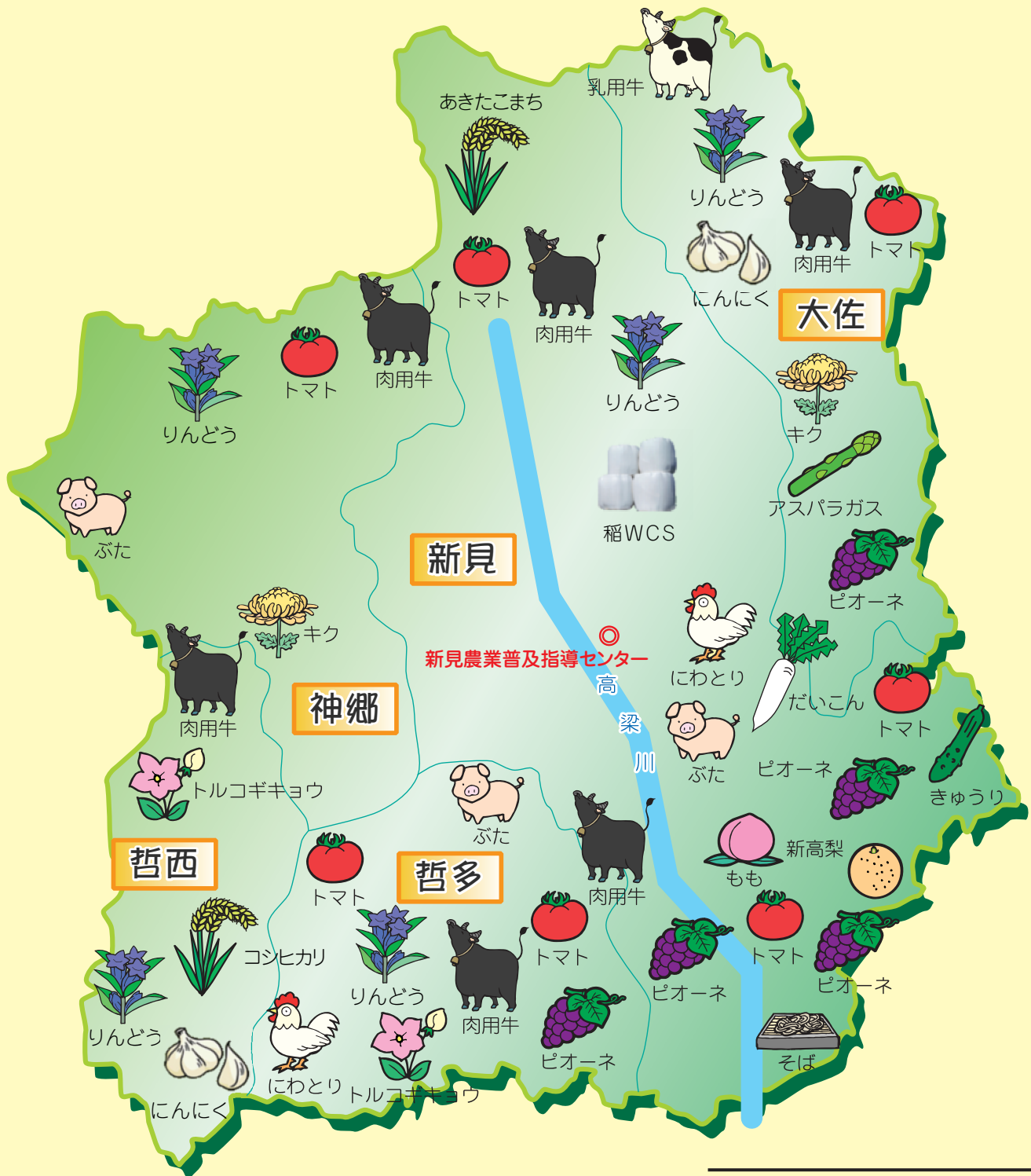
◎優等賞首席	若雌区の 4 「ふじ」 有藤 剛（哲多）
--------	----------------------

(6) 平成 27 年度 岡山県農林漁業功労者表彰

平成 27 年 10 月 27 日、県庁で農林水産業振興のための献身的な活動が特に顕著なことが評価され表彰されました。

◎知事表彰（農産部門）	清原 保（豊永）
◎農林水産部長賞（農産部門）	吉村 誠（豊永）

新見市の主な農畜産物



岡山県備中県民局農林水産事業部
新見農業普及指導センター

〒718-8550 岡山県新見市高尾 2400

担い手・農産班 TEL(0867)72-9177

園芸班 TEL(0867)72-9179

FAX(0867)72-0495

e-mail: niimi-fukyu@pref.okayama.lg.jp

ホームページ Facebook 新見農業 検索



ホームページ
QRコード



Facebook
QRコード